

入選

相手の気持ちに寄り添って

静岡県 磐田東中学校

3年 小嶋詩織

「ありがた迷惑だからやめて。」

ある日、友達にそう言われた。私は、昔から人のために何かをするのが好きだった。

「ありがとう」と相手が喜んでくれるのが、すごくうれしかったからだ。けれど突然、友達にそんなことを言われ、私は呆然としていた。どうして親切にしたのに、つらそうな顔をしているの？ どうして泣いているの？ 色々な疑問が浮かぶ中、「ありがた迷惑」、そんな言葉が私の頭の中にくり返し、くり返し響いていた。

家に帰ってから、母に今日あったできごとを話した。すると母は、

「友達にどういう親切をして、ありがた迷惑って言われたの？」

と聞いてきた。私は、友達の授業の準備を手伝ってあげていた。友達は、みんなよりは少しマイペースな子だったから、準備が遅くて、授業に間に合わないことあったからだ。また手伝いは今日だけではなく、以前からやっていたと母に伝えると、

「友達は、本当に手伝ってほしかったのかな。」

そう聞かれた。当たり前でしょ、とすぐに言えなかった。思い出したことがあった。友達は私が準備の手伝いをするたび、

「ありがとう。でも自分でできるよ。」

と言っていたことだ。もしかしたら、友達はずっと前から、手伝いを「ありがた迷惑」と思っていたのかもしれない。親切にしているつもりが、友達を傷つけてしまっていたのかもしれない。そう気づいて、今までの自分を恥じた。そんな私を見て母は、

「親切とありがた迷惑は紙一重で、区別は難しいかもしれないけれど、相手の気持ちに寄り添って、相手のために自然と行動できるのが親切かもね。」と言った。

「相手の気持ちに寄り添って」

その言葉が私の頭で、くり返しくり返し響いた。そういえば私は、「こうすれば絶対相手は喜んでくれる！」と決めつけて、自分の価値観を相手におしつけていた。結局私は、自分が感謝されるために、「自分のために」相手に親切にしているつもりだったのだ。ありがた迷惑と言われても、しかたがなかった。

それから私は、友達に今までの行動を謝った。友達は優しく許してくれて、今でも仲良くしている。親切は難しく、勇気があることだと思うけれど、それでも「相手の気持ちに寄り添って」を心がけて、少しでも人を笑顔にできるようにしたいと思う。